

日本と世界の
平和を
考える

19～21 :3回シリーズ



19 東日本大震災後の日本経済の行方 -成長から適応へ-
2012年2月15日(水)

立命館大学 国際関係学部 教授 高橋 伸彰

次々と湧き出てくる人間の欲望をいかに満たすかが成長の時代のテーマだったとするなら、限られた環境や資源の下でいかに豊かな生活を実現するかが適応の時代のテーマである。今から40年近く前に、高度成長後の日本経済の姿を描いていた下村治と高橋亀吉の議論も交えながら、今後の行方を展望する。



20 多面体としての憲法9条
2012年2月22日(水)

立命館大学 国際関係学部 教授 君島 東彦

日本国憲法9条は多面体である。フシントン、大日本帝国、日本国民、沖縄、東アジア、地球市民社会の6つの視点から見ることで、憲法9条の全体像が浮かび上がってくる。それを通じて、憲法9条の軌跡、意義、可能性をたらしなおし、憲法9条を再発見したい。



21 宇宙軍拡・原発依存から平和で長寿のエコ・エコノミーへ
--日本の新しい国家目標を考える--
2012年2月29日(水)

立命館大学 経済学部 教授 藤岡 惇

原子力と宇宙利用にもとづく戦争経済の仕組みとを解説した後、東アジアの平和と福祉と震災復興を支える経済に転換する道筋について考えてみたい。

◆会場

大阪富国生命ビル5階 立命館大阪キャンパス

◆開講期間

2011年9月14日(水)～2012年2月29日(水)
14:00～15:40(90分の講義と10分の質疑応答) **全21回**

◆受講料

1回1,000円(17回以上一括申込の場合17,000円)

◆定員

各98名
定員になり次第締め切らせていただきます。
あらかじめご了承ください。

◆お申込方法

- 表紙裏面「受講申込書」に必要事項を記載の上、FAX・E-mail・郵送、いずれかの方法で下記お申込先までお送りください。
- 受講申込受付後、「受付確認書」「郵便振込用紙」をご送付いたしますので、受講料を納付(郵便振込)願います。
※事務局受付で現金払いはできません。
※振込手数料は申込者のご負担でお願いいたします。
※いったん納付いただいた受講料は返金いたしかねますのでご了承ください。
- 着金確認後、受講票を送付いたしますので、受講当日、必ずご持参の上、受付でご提示ください。

◆お申込み・お問い合わせ先

立命館大阪オフィス
〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4
大阪富国生命ビル5階 立命館大阪キャンパス内
TEL:06-6360-4895
FAX:06-6360-4894
e-mail:osaka-of@st.ritsumeiji.ac.jp

※事情により、やむを得ず、日程・テーマ・講演者などが変更になる場合がございます。

立命館大阪キャンパス

〒530-0018
大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル5階
TEL:06-6360-4895 (大阪オフィス)
FAX:06-6360-4894
E-mail : osaka-of@st.ritsumeiji.ac.jp
URL : http://www.ritsumeiji.jp/osaka_office/index_j.html

交通アクセス

- 地下鉄谷町線 東梅田駅 徒歩1分
- 地下鉄御堂筋線 梅田駅 徒歩3分
- 阪神 梅田駅 徒歩3分
- JR 大阪駅 徒歩5分
- 阪急 梅田駅 徒歩5分



2011年度

立命館 大阪オフィス 講座

“学ぶ楽しみ” “知る喜び” は
暮らしを豊かにします。

本年度も様々な分野の
研究者・専門家が、
あなたの知的好奇心に応えた
熱い講義を展開します。

2011年9月14日(水)～2012年2月29日(水)
14:00～15:40 全21回

2011年度 立命館大阪オフィス講座

受講申込書

※事務局記入欄

[No.]

必要事項を記入の上、**FAX・E-mail・郵送** いずれかの方法でお送りください。

FAX:06-6360-4894 E-mail:osaka-of@st.ritsumei.ac.jp

ふりがな			
ご氏名		性別	男・女
ご住所		年齢	
TEL		FAX	
E-mail			
この講座を何でお知りになりましたか？	<input type="checkbox"/> 立命館大阪オフィスからの郵便物 <input type="checkbox"/> 立命館大学ホームページ <input type="checkbox"/> 父母教育後援会だより <input type="checkbox"/> 校友会報誌「りつめい」 <input type="checkbox"/> 大阪府・市の公共施設 <input type="checkbox"/> 知人からの紹介 <input type="checkbox"/> 新聞広告（新聞名） <input type="checkbox"/> その他（ ）		
※卒業生の方	(西暦) 年	学部	学科 卒
※ご父母の方	お子様の氏名	()	学部 学科 回生

※任意記入

ご希望の講座の申込欄に、○をお付けください。

講座No.	開催日	講師	申込
1	2011年 9月 14日(水)	沢 勲	
2	2011年 9月 21日(水)	杵本 日出夫	
3	2011年 9月 28日(水)	飯山 青海	
4	2011年 10月 5日(水)	本郷 真紹	
5	2011年 10月 12日(水)	杉橋 隆夫	
6	2011年 10月 19日(水)	畑中 敏之	
7	2011年 10月 26日(水)	徳川 信治	
8	2011年 11月 2日(水)	安藤 次男	
9	2011年 11月 9日(水)	松下 冽	
10	2011年 11月 16日(水)	子守 康範	
11	2011年 11月 30日(水)	大谷 邦郎	

講座No.	開催日	講師	申込
12	2011年 12月 7日(水)	松田 士朗	
13	2011年 12月 14日(水)	山本 直樹	
14	2012年 1月 11日(水)	海老 久美子	
15	2012年 1月 18日(水)	手嶋 教之	
16	2012年 1月 25日(水)	旭堂 南陵	
17	2012年 2月 1日(水)	もり・けん	
18	2012年 2月 8日(水)	恩田 雅和	
19	2012年 2月 15日(水)	高橋 伸彰	
20	2012年 2月 22日(水)	君島 東彦	
21	2012年 2月 29日(水)	藤岡 惇	
全21回を受講する			

■受講料／**1回1,000円(17回以上一括申込の場合17,000円)**

■定 員／**各98名** 定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

■受講申込受付後、「受付確認書」「郵便振込用紙」をご送付いたしますので、受講料を納付(郵便振込)願います。

※ご記入いただいた個人情報は、学校法人立命館個人情報保護規定に基づき管理し、本講座の運営以外には使用しません。

地中と宇宙の科学 1～3:3回シリーズ



1 洞窟・環境・人間を考える
2011年9月14日(水)

NPO法人 洞窟環境NET学会 会長 沢 勲

①石灰岩洞窟、火山溶岩洞窟、琵琶湖の湖食洞窟 ②国内洞窟住居：富士山ほか ③外国洞窟住居：トルコほか ④深刻な洞窟環境：山口県ほか ⑤洞窟写真展、米国の火山噴火映像、富士山の洞窟映像、沢出渾の洞窟ハウス



2 夢は再び宇宙へ！～挑戦する勇気は夢をも叶える～
2011年9月21日(水)

東大阪宇宙開発協同組合 理事長 杵本 日出夫

まいど1号衛星打上げ成功ニュースで歓喜と奮起。東大阪宇宙開発協同組合(SOHLA)は、なぜ「まいど1号」だったのか、組合運営危機を乗り越え成功までの道のりを振り返って、ゼロから挑戦するSOHLAの姿は、社会に奮起と勇気を与えた。そして参加した企業や社員はどのように変わったのか、また何をすることができたのか。そしてSOHLAが次に目指す社大な挑戦とは？



3 「はやぶさ」の帰還と太陽系大航海時代
2011年9月28日(水)

大阪市立科学館 学芸員 飯山 青海

2010年6月に地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」。はやぶさプロジェクトの全体像を振り返り、特にはやぶさの地球帰還と、はやぶさが切り拓いた新しい時代の展望をお話します。

歴史探索の楽しみ 4～6:3回シリーズ



4 日本古代の律令国家・王権と宗教
2011年10月5日(水)

立命館大学 文学部 教授 本郷 真紹

七世紀末に成立した日本の律令国家は、法制的整備と共に宗教を通じての支配を目論み、伝統的な神祇信仰と外来の仏教の併用を図った。本講座では、当初の構想と、八世紀を通じての宗教政策の展開について、その実態を考察することにしたい。



5 日本中世の政治と法制
2011年10月12日(水)

立命館大学 文学部 教授 杉橋 隆夫

日本の中世は、古代律令制と近世幕藩制という、ともに集権・官僚制を旨とする時代とはまったく異なる様相を呈した。とりわけ政治と法制分野では、政権と法権の分立を招いた。鎌倉幕府や「御成敗式目」の成立など、具体的にその跡を追う。



6 日本近世の社会と身分
2011年10月19日(水)

立命館大学 文学部 教授 畑中 敏之

「士農工商」でイメージされる近世(江戸時代)の社会は、実像とはかけ離れています。雪踏(雪駄)の生産・流通・消費のあり方を素材にして、近世社会の実像を「身分」をキーワードに描きます。

グローバル化の中の法と政治 7～9:3回シリーズ



7 グローバル化社会における人権の尊重
2011年10月26日(水)

立命館大学 法学部 教授 徳川 信治

国際社会のグローバル化が進んだ今日、国際連合は、その活動原則に「人権の主流化」を据え、国際社会における人権・民主主義の促進・発展に向けて動いている。この人権尊重の動きは、国際社会、日本、そして市民生活にどのような影響を及ぼしているのか、皆さんと考えてみたい。



8 ブッシュとオバマの違いから見るアメリカの自由主義政治
2011年11月2日(水)

立命館大学 衣笠総合研究機構 特任教授 安藤 次男

世界に冠たる「自由の国」アメリカ。だが、9・11事件やイラク戦争に見られるように、昔から、意外に「自分と違う思想に不寛容」で、他国に軍事力行使することもためらわない。ブッシュ政権とオバマ政権を比較すると、アメリカ自由主義政治の特徴がよく分かる。相違点だけでなく共通点にも着目することが必要。



9 グローバル化時代における途上国の現在と可能性—国家・開発・市民社会—
2011年11月9日(水)

立命館大学 国際関係学部 教授 松下 冽

グローバル化は途上国社会に如何なる変化をもたらしたのか、国家と開発と市民社会という三つの領域から、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの主要諸国(インド、ブラジル、南アフリカなど)における新しい展望を切り開く可能性と挑戦を考えたい。

私たちの暮らしとメディア 10～12:3回シリーズ



10 ラジオのチカラ、映像のチカラ
2011年11月16日(水)

(株)アンテリジョン 代表取締役/MBSラジオパーソナリティ 子守 康範

毎朝5時から3時間の生放送。マイクの向こうにいるのは大勢の「皆さん」ではなく、「あなた」です。リスナーとの心のふれあいとビデオジャーナリストという言葉がなかった時代から世界を取材した体験をお話します。



11 ラジオから学んだ気付き力!想像力!
2011年11月30日(水)

(株)毎日放送 編成局 宣伝部長 大谷 邦郎

ラジオは気付き力・想像力が必要なメディアです。そうしたパワーを活用すると、見るもの、聞くもの何事も「おもしろく」なるのです。参加者の皆さんと一緒にオモシロおかしく、五感を活用しながらその力を磨いていきましょう。



12 ジャーナリズムの活力と倫理 ～テレビ報道の諸問題を中心に～
2011年12月7日(水)

関西マスコミ倫理懇談会 顧問/元 立命館大学 非常勤講師 松田 士朗

日本のテレビは、その影響力の増大とともに厳しさを増す世論と、それを背景にして様々な公的規制をかけようとする政治的・行政的圧力の挾撃に遭遇している。その実情と環境変化を踏まえた上で、「ジャーナリズムとしての活力と倫理」の調和を考察する。

健康と科学 13～15:3回シリーズ



13 アルツハイマー病の治療薬の研究
2011年12月14日(水)

立命館大学 薬学部 助教 山本 直樹

高齢化社会を迎え、患者数が年々急増しているアルツハイマー病の治療薬について、研究者の観点からお話しさせていただきたいと思えます。内容は、①アルツハイマー病の概要、②我々の研究室における研究内容、③現在における治療薬開発について です。



14 スポーツと栄養～ローカルからの発信
2012年1月11日(水)

立命館大学 スポーツ健康科学部 教授 海老 久美子

スポーツと栄養についての基本的な考え方と、ジュニアアスリートから高齢者までローカルから発信する栄養サポートの実例を紹介する。



15 福祉ロボットの現状と未来
2012年1月18日(水)

立命館大学 理工学部 教授 手嶋 教之

マスコミによる興味本位の報道の結果、福祉ロボットの本来の本質と現状は、ほとんど知られていない。すでに福祉ロボットを実際に生活場面で使っている事例が多数ある一方、福祉ロボットと呼称しながら福祉の精神とはかけ離れたものもある。このような現状と、未来像をわかりやすく解説する。

芸能の興に学ぶ 16～18:3回シリーズ



16 日本の話芸の歴史 ～講談と落語を中心に～
2012年1月25日(水)

講談師/大阪芸術大学 客員教授 旭堂 南陵

日本の話芸のルーツは僧侶の説法にあり、明治の初期までは説教、講談、落語が三大話芸であった。説教からどのように講談と落語が分化したか、そして講談と落語はどう違うかを解説。ラストに講談の実演を行なう。



17 日本の歌「童謡」が育むもの
2012年2月1日(水)

ハーモニカ奏者/童話作家 もり・けん

胎児を含めた6歳までに、本物と出会った子は本物になる。江戸時代の教育に学び、将来日本を背負って立つ人間にするために周りにいる大人たちの役割について、トークとハーモニカで語ります。



18 「繁昌亭」と上方落語
2012年2月8日(水)

天満天神 繁昌亭 支配人 恩田 雅和

天満天神繁昌亭は、2006年9月大阪で60年ぶりに復活した落語専用小屋です。繁昌亭が開場して5年半近く経過しましたが、依然盛況が続き、全国的にも注目されるスポットとなりました。これを契機に、定席と上方落語の魅力について考えます。